



高知市立秦小学校において、第4回 国語科 授業づくり講座<授業研究会>が行われました。10月2日に行われました<教材研究会>を受け、本講座のねらいである、学習指導要領の趣旨理解や改訂のポイントに沿った「教材研究の仕方」、「言語活動を通し

た単元づくり」、「言葉による見方・考え方」、「指導と評価の一体化」などについて、第1学年の具体的な授業を通して提案者と参加者が一緒になって学び合いました。



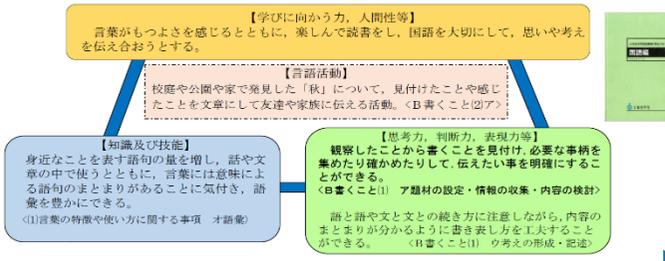
# 「書くこと」における指導と評価の充実

単元名 いろいろなあきを 見つけた!!  
教材名 第1学年:「はっけんしたよ」(東京書籍 1年下)

## ○教科等横断的な単元構想(「生活科」との関連)



## ○本単元で育成したい「資質・能力」



前時・本時・次時の記録

毎時間「言葉による見方・考え方」を働かせて、「資質・能力」(赤い囲み部分)を育成する

前時 1/8: 生活科の時間に見つけた「秋」の動植物を友達や家族に紹介するために、様子を伝える文章を書き発表しようという単元の見通しをもつ。共通体験である「牛」との触れ合い体験学習を思い出し、「牛」の様子(特徴)を付箋紙に書き出す。

本時 2/8: 観察の観点(大きさ・形・色・さわった感じ・聞こえる音)に沿って分類していく。児童は観点別に整理するよさや、見付けた様子の観点が偏っていたことに気付く。

次時 3/8: 「発見メモ」と文章を関連付けながら、段落ごとに書かれている内容を捉え、語と語や文と文とのまとまりが分かるように、「牛」の様子を伝える文章を書く。

時	学習内容
1	ゴールイメージ・見通しの共有(紹介するための文章)
2	観察の観点(観察のわざ)を捉え発見メモを書く
3	発見メモと文章の関連を捉える
4	発見メモを基に様子を伝える文章を書く
5	観察の観点(観察のわざ)を使って発見メモを書く
6	発見メモを基に様子を伝える文章を書く
7	友達と読み合い文章を修正する
8	見つけた「秋」を友達や家族に伝える単元を振り返る

5/8: 物の「秋」の発見メモ

6/8: 物の文章

### <言葉による見方・考え方>

思考を可視化する

前時見付けた「牛」の様子(付箋紙)を「観察の観点」に沿って分類していく。児童は観点別に整理するよさや、見付けた様子の観点が偏っていたことに気付く。

分類できない特徴を出し合い、新しい観点を発付ける。「におい」「大きさ」「長さ」等

観察の観点に沿って、新しく発見した「牛」の様子を違う色の付箋紙に書き、「発見メモ」に付け加える。

### <言葉による見方・考え方を働かせている児童の姿>

対象: 動植物

言葉: 観察の観点(わざ)  
・大きさ ・形  
・色 ・動き  
・さわった感じ  
・聞こえる音 等

様子伝える  
・発見メモ  
・文章

言葉による見方・考え方  
「対象」と「言葉」を比較・検討して、その関係性を言葉によって理解し、言葉によって説明することが重要である。

### <評価メモの活用>

本単元では、児童の学習状況を把握する際に、観点ごとの評価規準に照らして適切に評価できるように、「評価メモ」を作成した。一人一人の児童の実現状況を確認・記録できるようにし、C評価の児童をB評価とするために教師が行った指導・手立てについても記入し、授業改善にも活用した。

児童名	①(観察)	②(文章)	③(発表)
児童A	B	B	B
児童B	B	B	B
児童C	B	B	B
児童D	B	B	B
児童E	B	B	B
児童F	B	B	B
児童G	B	B	B
児童H	B	B	B
児童I	B	B	B
児童J	B	B	B

### 講師の指導・助言

講師: 松永 立志 先生(前鎌倉女子大学 准教授)

#### ○書くことの学習活動の改善

書くことが苦手な子どもの原因として、

- ①書くことがない(言語内容の発想・気付き・取材が不十分)
- ②書き方が分からない(言語形式=書く力の理解・定着が不十分)
- ③書きたくない(書く意欲・関心・目的・相手・意図などの意識が不十分)

この3点が挙げられる。この3点の原因を解決するためにも、言語活動を設定する際には、児童が学習へ向かう時の「意図(願い・思い)」、意図をもたせるための具体的な「相手意識・目的意識」が不可欠である。言語活動を通して、毎時間の学習が言語活動の具現化(秋の観察報告文を書いて友達や家族に伝える)に近づいていくように、指導事項を押さえて指導することが大切である。

#### ○新しい評価の在り方

三観点の①「知識及び技能」、②「思考力、判断力、表現力等」の評価については、インプット(教科書教材を使って観点を学び、観点に沿って対象物を見つめ、言葉で表していく)したものを、アウトプット(「牛」「秋」について観点に沿って書く)させたもので評価する。③「学びに向かう力、人間性等」については、従来の関心・意欲・態度の評価ではない。粘り強さと、自己調整力の双方を適切に評価することである。(本単元でいえば、単元後半の「秋」の文章の下書きを友達との交流を通して、よりよい文章にしようと試行錯誤し修正した文章を評価することである。)

### 参加者の感想

○自分の思いを記述で表現したい!と意欲をもって取り組む児童を育成するために、①1時間の中で付けたい力を明確にすること(重点指導事項の明確化)、②伸びを自覚できる場面の設定、③レベルアップさせるための評価の見取り、が大切であると感じた。

○評価規準を基に、何を評価するのか評価方法を明確にすることで、その時間に何を指導するのかがはっきりとする。記録に残すことで手立が早く打てるのが分かった。全員B基準を達成するための指導方法・手立てをもって授業に臨みたい。

○「言語活動」「言葉による見方・考え方」「指導と評価の一体化」など学習指導要領で重要なキーワードとして取り上げられていることについて、具体的な授業を通して理解することができた。松永先生からのお話にあったように、主体的な学びにつなげるため、相手意識・目的意識・意図を大切にしていきたい。

### 授業者より

授業を終えて、学びの系統を捉えることの大切さ実感しました。特に、低学年は語彙の量と質に個人差があるため、全ての児童の語彙を増やすことができるように、児童の実態に応じた単元構成や指導方法の工夫が大切であるということを学びました。

本校の国語科における授業づくりは、言語活動を設定する際に児童に意図をもたせること、単元の中で「分かる」と「できる」を行き来すること、学びを可視化すること、を大事にしながら取り組んでいます。そのことにより、国語科で身に付けた力を他教科等の学習場面でも発揮しながら、意欲的に取り組むことができている。また、児童の学習状況を把握するために「評価メモ」を活用しています。メモを活用することでC評価の児童に対して次時までに手立てを打てることや、毎時間の評価を次時の指導に生かすこともでき、授業改善につなげることができました。

松永先生から、「児童の書きたい気持ちを大切にしていきたいことが一番大事だ」とご指導いただきました。これからも目の前の児童の書きたい気持ちを大切に、達成感ももてる単元構想や指導方法に取り組んでいきたいと思っております。

片岡 史衣 教諭